

国立情報学研究所実務研修

1. 目的

国立情報学研究所における実務を経験することにより、高度の学術情報システムの環境に対応しうる知識と技術を修得し、大学図書館や情報センター等が推進する学術情報流通基盤整備の中心的役割を担う。

2. 到達目標

国立情報学研究所学術基盤推進部(学術基盤課、学術コンテンツ課、図書館連携・協力室)における OJT(On the Job Training)を通じて、学術情報流通基盤の構築に向けての企画・立案・実施等の手法と、対応する知識と技術を修得する。また、学術情報流通基盤の構築にかかる総合的かつ長期的視野を持つ。

なお、本研修修了者には、次年度以降も国立情報学研究所が主催する各種のイベント・講習会、各種ワーキンググループ、パブリックコメント等に積極的に参加することを求める。

3. 受講対象者

大学・研究機関等において、図書館、電子計算機およびネットワーク等の業務に従事する職員。

4. 受講の前提となる知識

学術情報流通基盤の構築、運用および管理等の概要を理解していること。

5. 受入期間等

NII への通勤	募集時期	研修開始希望日	申込締切	受入期間	定員
(1)可能	2019 年度前期	7～9 月	研修開始希望日 1ヶ月前まで	個別調整 (3ヶ月～ 1年以内)	若干名
	2019 年度後期	10～12 月			
	2020 年度前期	4～6 月			
(2)困難	2019 年度後期	9～12 月	研修開始希望日 3ヶ月前まで		
	2020 年度前期	4～8 月			

※ 研修修了日は年度末日(3月31日)を超えないこと

※ 2020 年度前期に研修開始希望の場合は、2019 年度内に事前調整・申込を行う。

※ 「7.受講の申込みと受講者の決定」記載事項も留意のこと。

6. 主な研修内容

テーマおよびカリキュラムは、国立情報学研究所、派遣機関および研修生との間で協議の上決定する。研修生は、研修報告書を作成して派遣機関に報告するとともに、個別に設定した研修テーマについて、レポートを作成し発表を行う。

2019年度の研修テーマ例：

- 学術情報ネットワークの設計・構築・運用(SINET)
- 学術認証フェデレーションの整備(学認(GakuNin))
- クラウド導入支援 (学認クラウド)
- 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の事務に係る業務
- 電子リソース基盤整備(ERDB 等)
- 総合目録データベースの強化(NACSIS-CAT 等)
- オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)及び機関リポジトリ・共用リポジトリの推進(IR、JAIRO Cloud、DOI 等)
- 学術情報の発見・アクセス環境の高度化(CiNii、KAKEN 等)
- 国際学術情報流通基盤の整備(SPARC Japan 等)
- オープンサイエンス・研究データの共有・公開基盤の構築

過去の研修実績：国立情報学研究所実務研修のウェブサイトを参照のこと

<https://www.nii.ac.jp/hrd/ja/jitsumu/result.html>

7. 受講の申込みと受講者の決定

(1) 国立情報学研究所への通勤が可能な地区から応募の場合

受講希望者の所属機関が、推薦書を提出することで受講希望者の推薦を行う。研修開始希望日の**1ヶ月前まで(厳守)**に、各所属機関の長から国立情報学研究所長に対して、「国立情報学研究所実務研修推薦書」を提出する。

(2) 国立情報学研究所への通勤が困難な地区から応募の場合

受講希望者の所属機関が、推薦書を提出することで受講希望者の推薦を行う。研修開始希望日の**3ヶ月前まで(厳守)**に、各所属機関の長から国立情報学研究所長に対して、「国立情報学研究所実務研修推薦書」を提出する。

但し、(1)(2)とも、事前の協議が必要となるため、推薦書提出の1ヶ月前までを目処に、国立情報学研究所教育研修事業担当に問い合わせを行い調整する。

推薦書書式・受入に係る手順等は、国立情報学研究所実務研修のウェブサイトを参照のこと。

<https://www.nii.ac.jp/hrd/ja/jitsumu/index.html>

8. 経費

研修費および教材費	無料
旅費	国立情報学研究所の負担

※ なお、就業規則の適用、給与、諸手当、住居等に関する事項については、国立情報学研究所と派遣機関との間で協議の上決定し、協定書を締結する。

9. 修了証書

この研修において所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。